

# 核廃絶へ幡多ゼミ再開

## 国際会議出席目指す

【清水】高校生自ら県内の被ばく者の証言を集め核廃絶などを訴えてきた「幡多高校生ゼミナール」が22日、米国のビキニ環礁の水爆実験で被ばくしたとされる元船員の講演を開いた。約3年ぶりの活動再開で、今後は生徒を募り、元船員の証言映像集作りや平和集会への参加を予定している。(新田祐也)

幡多ゼミは1988年、幡多の高校教員を中心に組織。「足元から平和を考えよう」と宿毛市沖の島の強制疎開、ビキニ水爆実験で被ばくした本県漁船員の証言などを、高校生自らが集めてきた。

80年代には60人ほどが参加。製作した記録映画が国内で賞をとったこともある。しかし、ゼミを担当する教員の定年、元教員の高齢化などもあり、2015年以降は活動休止状態だった。

## 参加高校生を募集



22日、幡多ゼミが土佐清原市で開いた講演には中村高校と清水高校の生徒8人が招かれた。生徒は、長崎原爆の爆心地から2・5キロ地点で被爆したという横山幸吉さん(88)と土佐清水市本町IIが終戦後、マグロ船員としてビキニ環礁の水爆実験でも被ばくしたとされる状況に耳を傾けた。

多くの知人を失い「原爆は絶対いかん」という横山さんの訴えを聞いた中村高3年の山崎媛加さん(18)は「戦争が全ての悲劇の根幹にあると思う。大久保琴加さん(17)は「身近に被ばくした人がいるのに驚いた。今、話を聞いて残すのが大事と思う」と話し、2人もゼミに加わるといふ。

上岡顧問は「平和を願うたくさんの大人から生きる知恵を学んでほしい」と期待している。ゼミへの問い合わせは上岡顧問(090・1170・3259)へ。

ビキニ水爆実験の被ばく者とされる男性から証言を聞く高校生(土佐清水市寿町の市立中央公民館)